

平成29年度 第6学年 授業改善プラン

教科	観 点	課 題	指導の視点	具体的な手立て・改善策
国語	国語への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・前学年までの漢字(特に書き取り)が十分定着していない。 ・文章の内容を正確に読み取り、表現する力に課題がある。 ・主語と述語の関係を押さえて、文章を書くことが苦手な児童が三分の一程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書き取り練習や確認テストを計画的に実施し、漢字を書く力を定着させられるよう指導する。 ・説明文、物語文でも、教科書の叙述を根拠にしなが、読み取れるように指導する。 ・主語、述語、修飾語の意味、使い方、文章の構成の仕方を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習ドリルや中学年からの漢字の総復習プリント、東京ベーシックドリルで、楽しみながら繰り返し学習できるようにして、語彙力を身に付けさせる。 ・毎日の家庭学習に音読を入れる。また、文章を要約する活動を多く取り入れ、要約した文章をペアで見合い、内容の理解が深まるようにする。また、接続語や指示語の意味や使い方を押さえることで、筆者の考えや登場人物の心情を読解できるよう指導する。さらに、読解のプリントを家庭学習に取り入れて習熟を図る。 ・日記を家庭学習に取り入れ、作文の機会をしっかりと確保し、文章力向上を目指し、担任が毎回丁寧に添削を行う。
	話す・聞く能力			
	書く能力			
	読む能力			
	言語についての知識・理解・技能			
	全国学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字だけでなく、季節を表す言葉や漢数字など、漢字を含む言語の学習を日常的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の学習の際に、部首や漢字の成り立ち、漢字の意味と音等に毎回触れる。また、同音異義語等に注意させるなど、間違いやすい部分の指導を継続して行う。さらに、辞書指導を取り入れ、漢字に対する学習意欲を高めるようにする。 	
社会	社会的事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・出来事と時代を関連付けて理解することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年表の読み取りの回数を増やし、時系列ごとに出来事の因果関係を捉えられるようにさせる。 ・出来事と時代が混ざって理解の妨げにならないように整理をしながら指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その当時の資料をもとに自分たちで学習問題を設定し、課題解決に向けて必要なことを調べてまとめ、発表する機会を増やしていく。そうすることで、人物、出来事、時代の関係をより正確に捉えられるようにする。 ・人物と出来事の学習をした後、振り返る時間を確保し、年代を整理する。
	社会的な思考・判断・表現			
	観察・資料活用の技能・表現			
	社会的事象についての知識・理解			
	児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて	<ul style="list-style-type: none"> ・年表と資料を関連付けさせ、出来事に関してなぜそのようになったか自分の考えが導き出せるような、資料提示を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項をもとに考え、新出の学習内容との繋がりを資料から読み取りやすいように提示の仕方や学習の展開を工夫する。 	
算数	算数への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・倍数・約数、図形の求積、百分率とグラフ、計算などの「知識・理解」「技能」の面で課題がある児童がいる。 ・問題解決学習の流れを意識できるようになってきたが、発表・検討の段階での活動が深まらず、言いつばなし聞きつばなしになることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な事項や計算がきちんと身に付くように、様々な時間を活用して指導する。 ・児童が、進んで考えを伝えたり、まとめたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めの時間で、前時の復習や計算練習を反復させる。毎日の家庭学習でもドリル1ページに取り組み。 ・東京ベーシックドリルを活用し、帯活動で既習事項の復習を行い、定着を図る。 ・自分の考えを図や数直線などを用いて、友達にわかりやすく伝えるように工夫させる。 ・授業中、隣同士の教え合い、グループでの伝え合いなどの活動の場を意図的に設定する。 ・授業のまとめをできるだけ児童自身にさせる。
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解			
	全国学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて	<ul style="list-style-type: none"> ・式の役割として、計算をするだけでなく、場面や関係を表すことを理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立式の際に、言葉の式を使って式の意味を考える機会を増やす。 ・関係を数直線や線分図に表すことの良さを実感させる。 	
理科	自然事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習の流れは定着していると言えるが、観察・実験の際に、どのような条件制御を行えばよいか考えることが苦手な児童が多い。 ・前学年までの既習事項の知識・理解が定着していないために、既習事項を生かした学習が苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験方法を考えさせる流れを授業の中に入れて指導を行う。また、実験の目的をより明確にすることができるよう必然性のある課題を提示する。 ・既習事項の復習や確認の時間を設け、定着を図れるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・じっくりと自分の考えをノートに書くことのできる時間を確保する。また、その実験によってどのようなことが分かるのかをノートに書くことができるように板書をする。 ・授業の初めに復習の時間を設け、単元で扱う既習事項の確認を行う。また、適宜プリントなどを用いて学習する時間を確保し、定着を図る。
	科学的な思考・表現			
	観察・実験の技能・表現			
	自然事象についての知識・理解			
	児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を復習し、知識の定着を図ることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前学年までの既習事項を確認する時間を設けたりプリントで復習を行ったりすることで、知識の定着を図る。 	
音楽	音楽への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽アンサンブルにおいて、パートの役割や楽器の特徴を生かして演奏することに課題がある。 ・歌詞や曲想から様子や情景を思い浮かべることが苦手な児童が多く、曲想を工夫して演奏するまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の特徴をつかみ、全体の響きや音色を聴き取るようにする。 ・楽曲のよさを感じ取り、表現をする楽しさを味わうようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞や実際の演奏を通して全体の響きのよさやパートの役割に気付かせ、楽器の特徴を生かした演奏に近づくようにする。 ・何度も繰り返し歌ったり、演奏したりして楽曲のよさを実感できるようにする。
	音楽表現の創意工夫			
	音楽表現の技能			
	鑑賞の能力			
図画工作	造形への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の完成に時間がかかる。 ・作品鑑賞を通して、作者の意図や表現の良さを味わい、気持ちを表現することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間「今日のめあて」を必ず提示し、見通しをもたせる。 ・言葉だけでなく、体やイラストなど、感じたことを表現する方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に必ず毎時間の「めあて」や制作時間を掲示することで、児童一人ひとりが時間を意識して作品制作に取り組むよう指導を工夫する。 ・鑑賞の時間に、作品から感じたことを体や絵で表現させることで、言葉以外でも考えを伝えられるようにする。
	発想や構想の能力			
	創造的な技能			
	鑑賞の能力			
家庭	家庭生活への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・作業や実習には意欲的に取り組むが、学んだことを生かしてよりよいものにしていくために、自分の生活を振り返り、考えたり話し合ったりする活動には積極的でない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を振り返り、学習したことを活用したり、工夫したりすることで、よりよく生活しようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科ノートを活用し、学習の感想や振り返りの欄に必ず記入させ、実生活に照らし合わせて考える機会をもつ。 ・ノートや実践カードを友達と交流し合うことにより、よりよい生活に気付かせ、実践の意欲を湧かせる。 ・家庭でも実践できるよう、実践の仕方や事例をわかりやすく提示する。
	生活を創意工夫する能力			
	生活の技能			
	家庭生活についての知識・理解			
体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な動きを身に付けることはできているが、チームの課題やそこでの自分の役割などを考えて活動することができる児童が少ない。 ・初めて行う活動のルールや動きの理解に時間がかかってしまうことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとのめあてや一単位時間ごとの課題を明確にし、身に付けさせたい力を児童が把握することができるようにする。 ・運動の中にある良さとそれを生かすためにどのように動くかという視点を与えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れやめあてを書いたホワイトボードを用意し、授業の初めに提示することによって活動の目的を明確にする。 ・映像機器やホワイトボードを活用し、よりわかりやすいように視覚的に動きを理解させる。
	運動や健康・安全についての思考・判断			
	運動の技能			
	健康・安全についての知識・理解			